http:／／joonji.jp

真宗大谷派
浄恩寺

浄恩寺　雅楽葬　検索

令和４年　５月　第４５１号

浄恩寺同朋会報

電話　０５２－８８１－８４７４

「永代経法要厳修」

午前午後総入れかえ、約六十名の方が参拝、聴聞されました。

午前の法要では、約三十年間、総代責任役員を務められた杉浦義和さんの功労表彰記念品授与を行いました。本堂再建のご功績をお話しさせて頂きました。

お説教は荒山　信先生。日常の視線、世界情勢も鑑み、問題提起されました。

「正しさは、暴走する（大江健三郎）」

自身がただただ正しいとする信念は、プーチンのように殺戮を犯しかねない。

「ありがとうの対義語は・・あたりまえ」

日常生活の誰かの支えがあたりまえになった時、傲慢な自分が現れる。

「親を亡くして、親を知り。親を亡くして、親に出会う。」「自力を支えているのが他力」そんな真実に出会うために、仏の言葉に耳を傾けましょう。「ねんごろに（親鸞言）生きましょう。」丁寧に生きましょうと信先生は言葉をお伝えされました。

十一月十三日の報恩講の法話は、ご子息、荒山　優先生が来寺され、お話下さいます。

合掌

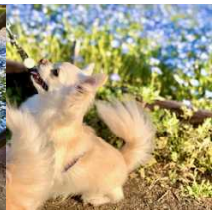
四月一日からの東本願寺、春の法要でクラスターが発生しておりました。名古屋に帰って二日目に本山から連絡がありました。抗原検査をすり抜け、四月三日に一名発熱帰省、その事実を伏せて、四日も法要を勤め参勤者に警鐘を告げずに解散帰省。何より、四月三日夜に催された宴会も黙認した判断の甘さ、いや責任回避の姿勢が、参勤者の家族も巻き込むことになってしまいました。

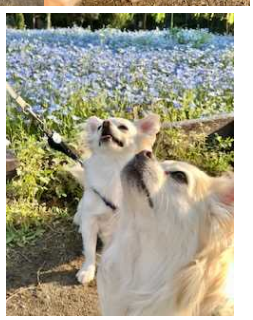
「前坊守、住職の母親危篤」

四月十一日、三ヶ月入院の急性期病院から転院。一月の発熱は陰性、当初原因不明の後、誤嚥性肺炎の疑いと診断。延命治療を断ったために、食事は止められ、水分点滴のみ行われた。慢性期介護付病院に転院を決めたが、入院中の病院で院内感染が繰り返され、母親の四人部屋で三人が感染。奇跡的に母親だけが感染しなかった。転院先で余命十日と宣告。終末期なので毎日面会は許可。それから十二日間通い、水、スイカの絞り汁、イチゴ、セトカ、メロン、乳酸菌飲料R1、メイバランスなどを介護用スポンジ歯磨きで飲ませ続けると、回復の兆しが見え始め、主治医の判断で食事も始まりました。誤嚥性肺炎の診断に疑念。年齢的に救急外来では、このように安易に老衰と診断される切なさを感じました。

四月の「たらふく」

今年は、鶴間公園のネモフィラが早く咲き、近場で楽しめました。そろそろバラも満開です。





浄恩寺のLINEラインを開設中です。御門徒さんにご尽力頂いております。こんなご時世だからより繋がれることが願いです。